22-31

特17
852

164
570

日本武士

074425-000-2

特17-852

日本武士

木内　武／編

M27

CEI-1677

明治二十七．五．三

日本魂

敷島の日本魂如何と問はゞ。朝日に匂ふ櫻花、色香世界に類なき。花と競ひし大丈夫が。國家に尽す赤誠は、「是ぞ皇國の寶なれ。左れば弘安四年とや。蒙古の精兵十余万。殺氣は筑紫の灘に備ち。勢ひ猛く寄せ來るを。一擧微塵に打碎き、「海の藻屑となしたりし。相模太郎の勲動や。馬跡に懸て鶏林の。八道諸州を蹂躙り。我日本の國威をば。遠く異城に顕わせる。豊太閤が功蹟は。千万年の後世迄も、「永く美名を留めける。歴[illegible]見みる[illegible]ぬ世の中の。興亡か亂や英雄が。成せし偉業を想ひ見て「眠れる士氣をば振作し。櫻の花と諸共に。旭に輝く御旗をば。吹なびかせて倫動や。巴里都城の月花に。吟嘯じるら大愉快

第五議會

看よや看よ第五議會の紛々擾々、豫ねて我等が待みてし。銀貨問題外交論、行政整理の追究や。海軍部内の改革は、「何れも彼れも打遣りて。開會劈頭第一に。議長の信任問はんとて。四派の交渉いろがしく。首尾能く約定纏りて。緊急問題と大呼して。打[illegible]を揃ふ慈母の膝、盟ふて祭る地下の鬼、「君と親とに尽さんと。嵐に向ふ小櫻、散りて香りて忠孝の。譽を千代迄傳んと。必死を極めし勢も、「さながら猛虎の荒るよう。修羅の巷を馳せ廻り。斬りつ斬られつ進み行く。其矛衝の鋭きに「官軍暫し猶豫いき。翳す鉄の束の間も、君を忘れぬ武士の「道のはてこそ哀なれ。發射す砲聲凄しく。天地も揺く震動に、「災逆巻く鶴ヶ城、蔽へる雲の官軍に。撃破れて支へ兼。殘る十有六人が。傍の丘に打登り、刺違へてぞ朝露と。果敢なく消へし白虎隊、「盛の花ぞ散にける。嗚呼勇ましや少年が。一死主君に報じたる。健気な忠心誰人か、「感ぜぬものてあらをらん忠臣ヂャ勇壯ヂャ

櫻田騒動

東洋に屹然立たる日本の國に、昔嘉永の頃と聞く。相州浦賀へ亞米利加、軍艦數艘入來り、德川幕府を脅迫し、勝手氣儘な條約を、「言結びたる其時に。尊王攘夷を唱へにし、梅田橋本頼三樹が、心の中を推すれば、大老掃部を恨みつゝ、「悲憤の涙に暮れつらん、左ればぞ程なく萬延の、春三月の頃なりき。水戸の脱藩佐野蓮田、薩の有村始めと

し。其他浪士の面々が。霏々と降り積む雪の中。大老登城を待受て「櫻田門外に刺殺し。凱歌を上けし其後は。勤王有志の輩が。蜂起なさざる所なく。大和近江の間には。中山卿が將となり。天忠組を起しつゝ。常野二州の間にハ。武田藤田が旗を擧け「各々大義を唱へける。土崩瓦解の大乱を。將軍大政返上と。共に維新と改まり。豐かな明治の大御代よ。萬世動かぬ憲法も。布けて開けし代議政。東洋一と其名をは。泰西諸國に發揚たりし、國の譽ぞ愉快なれ愉快チャヽ

青年の誠

陽關の三曲謳ふて意氣揚々と。馴れし故郷を後に見て。父母と別るゝ悲しみも、矢を射る如き功名の。鋭き心に先立れ。花の帝都に遥々と。笈を負ひたる青年の。其行末ぞ頼母しゝ。されと一度東京の。遊惰の風に染む時は。机よ向ひて詩を吟じ。肱を枕に流行歌。牛屋の二階て酔を買ひ。娘義太夫や矢場女「鼻毛讀まれて得意顔。花に戯れ月に酔ひ。おはぐろどぶの泥水に。鉄石心を鎔かして。新柳二橋の淫聲に。清き心を汚しつゝ。身の果知らぬぞ不憫なれ。國に殘りし両親も。粉骨碎身厭はずに。働き送る學る日を。今日か明日かと空頼み。頼みの綱の仕送も。切れて渚の捨小舟。今は寄邊を泣なくに。知己友人の盡力て。漸く仕込む玄關番。是等無頼の青年か。日本の未來を支配する元氣の基礎かとおもひみバ。最も悲憤の事ぞかし

群司大尉

「北海に羅烈碁布せれ千島の群嶋。呼へバ答ひんカムサツカ。東洋多事の今日に。我日本の北門を。警備なさんと大呼して。「彌生の眠を打覺り。國を愛する赤誠に。必死を盟ひ勇ましく。墨田堤を船出して。「狂瀾怒濤の其中を。千辛萬苦漸くに。占守島へと趣きし。報効義會の人々が。「現今の動靜知るか世人。花の帝都を後よして。大尉か纜解しとき。柏手喝采湧く如く。賞賛なせし其聲を。何時か痕なく消へ果てゝ。移れバ變る人心。「頼み難きぞ恨なれ。見よや北海萬里なる。嚴寒不毛の絶島に。永く皇土を護らんと。移住し大尉等一行が。「雨露を凌ぐに家も無く。衣は破れ糧尽て。慘憺悲愴の困苦にも。屈せす丈夫の心膽は。「誰か感泣なさざらん。斯る状況余所に見つ。暖衣飽食徒らに。月日を過す者あらバ。「眞に國家の賊なるぞ。多情多血の同胞も。奮ひ起りて諸共に。大尉の事業を賛助して。「皇國の爲に尽すへし。勇壯チャヤ愉快チャヤ

耶蘇教

いざやいざを御國の爲に尽さん者と。吾日本の青年が。「慷慨悲憤の血の涙。染むる思は楓葉の。赤き心の吾が燃が。二千年來傳えりし。百折屈まぬ鐵石の。一念こめて鍛へたる。「百馴研磨の日本刀。各々手に〳〵提けて。我に仇なす奴原や。耶蘇教奉ずる亡國奴。己を利する其爲に。國を害する奸賊を。「いざや誅せん國の爲め。一死は元より覺悟ぞや。獅子ふんしんの怒なし。なんなく彼等を打はらひ。屍は積んで山を成し。流血溢れて川となる。「殺氣勃々威風凛々。遠く彼方を見渡せバ。雲井遙ヨ北京城。一瞬千里と進み行き。難なく乘り入る西量の。逃るに任せて追ひ行けバ。倫敦巴里も一となだれ。大喝一聲夢醒りや。二階ぢやヤツ、クロの聲がする。愉快チャ〳〵

明治廿七年五月十五日印刷
仝　年五月廿八日發行

編者兼發行人　福井縣福井市松影町十四番地　木内武
印刷人　山形縣米澤市立町三扇堂内　高橋孝七

17
2